

～時代の変化に対応できていますか？～

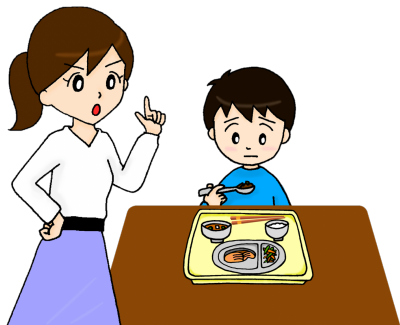
以前「きゅうけんマガジン」の読者アンケートで、給食指導における先生の悩みを調査したところ、1位は「好き嫌いが多い、偏食の子どもに対する指導」でした。そして時代の変化によって、指導法も変わっています。今月号では文部科学省の『食に関する手引き』を参考にピックアップしてみました！

昔

2010年

『食に関する指導の手引き(第一次改訂版)』
214ページより引用

- ▶ 好き嫌いせずに食べる
- ▶ 健康的な体を作るために一口でも食べてみる
- ▶ 嫌いなものをはじめから取り除かずに、食べてみようとする



- ▶ まずは苦手な食品の匂いをかぐだけ、ごく少量を食べてみるなど、偏食の原因を軽減するための取組を段階的に行います。
- ▶ 児童生徒自身が苦手な食品についてその日食べる量を決定し、完食することを目指した個に応じた指導を継続的に行います。

今

2019年

『食に関する指導の手引き(第二次改訂版)』
243ページより引用

POINT

第二次改訂版(最新版)でのポイント

01 より個別的な対応が求められるようになった

初めて偏食の定義が明記され、偏食に対する個別的な相談指導の留意点なども記載されるようになりました

02 無理に食べさせることは推奨していない

「偏食の多くは、成長や味覚の発達に伴い改善していく傾向にある」との記載がされるようになったことからも伺えます

今後は個別的な指導だけではなく、集団指導においても(クラス全体に対しても)、理由があって食べられない子がいることを伝えていくことが大切になると、きゅうけんでは考えています。

詳しい解説記事はこちら!

